

奇界

「奇界」と「世界」、その境界を巡って

世界120ヵ国以上を巡り、ありとあらゆる“奇妙なもの”をカメラに収めてきた写真家・佐藤健寿。人類が創造した多様な文化や文明、自然が生んだ奇景など、その作品は見る人に多くの驚きと発見を与えます。しかし、世界中に散らばる“奇妙なもの”を見ていくうちに、それらが現地の人々にとっては、日常にある“普通なもの”であることに気づかされます。私たち一人ひとりにとって“奇妙”とは、そして“普通”とはなにか？「奇界」を内包するこの「世界」の様々な姿をおして、佐藤の写真は、素朴で根源的な問いを投げかけます。

本展では、大ヒットとなった写真集『奇界遺産』シリーズや、膨大な旅の記録を振り返った最新刊『世界』に加えて、国立民族学博物館所蔵の民俗資料、そして新型コロナウイルス感染症の流行後はじめての撮影となった2022～23年の最新作まで、200点あまりを一堂に展示します。

世界

世界一「深い」地下鉄駅

最深部が地底150mにある、北朝鮮の地下鉄「復興駅」。冷戦時代に造られ、有事の際には地下シェルターとして機能するよう設計されている。冷戦終結後、社会主義国家の多くが世界に門戸を開く中で、現在も北朝鮮の扉は重い。世界で最も深い場所にある地下鉄駅を歩き交う人々は、どんな暮らしを営んでいるのだろうか。



《平壤／北朝鮮》2018年



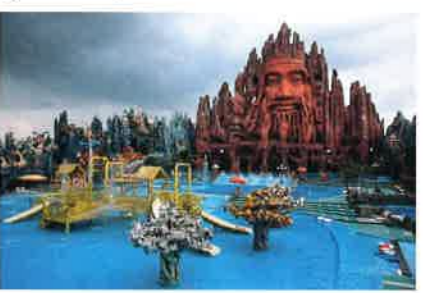
謎の寺院の自由過ぎる神様

《金剛宮／台湾》2009年



《ネパシ／アメリカ》2019年

高さ70mの国王像が見守るアジア最強テーマパーク



《スイ・ティエン公園／ベトナム》2009年



《ネネツ／ロシア》2017年

「世界の果て」に暮らす北極の遊牧民族

冬はマイナス40℃にも達する極寒の地でトナカイの群れを放牧して暮らす先住民族・ネネツ。週に1度、トナカイを1頭選んで絞め、あっという間に解体する。貴重な栄養源である血はそのまま飲み、肉も生のままで食べる。1滴の血も無駄にしないために、解体中トナカイの血はほとんど地面に落ちない。すべてがホワイトアウトする純白の雪原。そこでは雪に滴る真っ赤な血すら、美しく見える。



《バイコヌール宇宙基地／カザフスタン》2014年

アフリカのエチオピア北東部にある「エルタ・アレ」は、世界にも数えるほどしかない溶岩湖のうち、最も活発で、最も古いもの。20世紀に5回、今世紀もすでに2回噴火している。今にも爆発しそうなど表面張力ギリギリのラインで沸き立つ溶岩の迫力と緊張感は凄まじく、まさに地獄の入口と呼ぶに相応しい。

南の島のジャングルに宿る精霊

《精霊の家／ハバア・ニューギニア》2014年



《ウラー／サウジアラビア》2019年



《方族の棺桶／ガナナ》2012年

母への愛が生み出したアフリカン・デザイナーズ・棺桶文化

特別展示



《種（飛行機）》 国立民族学博物館

方族の棺桶など、作品と関連のある民俗資料を併せてご紹介！



世界最大の人口密度を誇った「廃墟の王」 《軍艦島（端島）／日本》2017年



《セント・マルテン／セント・マルテン》2014年